

行雲流水

No.246 令和4年9月26日発行

「次の波（第8波）」は、必ず来る

校長 寒河江 正人

皆さんは、記憶しているだろうか。

1年前の今頃は、2ヶ月間を超える「第5波」の終末期であった。

令和3年7月26日以来、実に68日ぶり。

県が、「**新規感染者は確認されなかった。**」と発表した頃である。

やはり、**今回も吉村美栄子知事による7月19日「第7波」突入の宣言以来、2ヶ月余り、いまだ県内の新規感染者は、数百名を下らない状況が続いている。**
油断して、感染予防対策が甘くなれば、「いつでも、誰にでも、感染はあり得る」のだ。

絶えず変異・進化する新型コロナウイルス。

繰り返し、繰り返し、「新たな感染の波」は、必ず来る。

次なる変異による「急激なリバウンド（第8波）」は、いつ、いかなるものなのだろう。
この先を確かに予測することは、誰にもできない。

一方、この冬、ここしばらく静かだった**インフルエンザの感染流行は、いかに。**
あとおよそ3ヶ月。この冬は、どんな状況になるのか、いまだ予測はつかない。

その頃、中学校の現場は「**3年生の卒業後の進路に係る大切な時期**」を迎えている。
おそらく県内は、**10月以降も少なからず新規感染者が続く**のであろう。

当事者である3年生の生徒諸君とその家族だけでなく、1・2年生の生徒諸君とその家族、そして、私たちも、**感染防止の徹底**に向けて、**特段の配慮**をせねばなるまい。

3年生にとって、「**大切な進路選択の時期**」に**万全の体制で試験にチャレンジ**できるように何としても、支えたい。
そして、「**自分なりの自己実現（進路実現）の達成**」が叶うように支えたい。

そのためには「**感染のリスクを負わない教育課程（授業・行事等）の実施**」が不可欠だ。
従来のやり方とは違う、「**何よりも、生徒の健康と生命の安心安全を最優先にした判断**」に基づいた教育課程（授業・行事・部活動等）の実施が「**ウィズコロナの常識**」になる。